

8. 金沢市住民の旧町名復活によるコミュニティ意識の変容

(代表) 松野 浩二 大野 博昭 杉原 翔太 瀬戸 香理 高嶋 祥
濱 海太郎 坂東 朗子 山本 雅之 (法学部法政学科 4年)

指導教員

眞鍋 知子 (法学部 准教授)

1. 背景と研究目的

いわゆる平成の市町村合併で多くの地名が消えていくなか、金沢市では、全国に先駆ける試みとして、旧町名を復活させるという事業に1999年より取り組んできた。今年3月1日にも袋町という町名が復活を遂げており、これまでに復活した町名は8つを数える。このような全国的にも注目を集める事業に関心をもった私たちは、何が旧町名復活を導く要因となったのか、あるいは、復活の後で住民の意識や行動においてどのような変化があったのか等について明らかにすることを課題として、この研究に取り組んだ。

2. 研究方法

主に以下の調査方法にて研究を行った。

- ① 旧町名復活に関する関連情報を収集する。
(主に地元新聞の過去の記事を検索)
- ② 旧町名復活事業を担当する金沢市市民局市民参画課への聞き取り調査を行う。
- ③ 得られた関連情報から、復活前後の住民の意識・行動に関する調査仮説を設定する。
- ④ 仮説を検証するために、復活運動の地域リーダーへの聞き取り調査を実施する。

主計町への聞き取り調査

対象者：料理屋のご主人の男性・A氏

場所：A氏宅

調査日時：2006年11月27日(月) 天気：雨 10:15～10:45

木倉町への聞き取り調査

対象者：スポーツ店経営者の男性・B氏

場所：スポーツ店店内

調査日時：2006年11月28日（火）天気：曇り 10:00～11:30

柿木島への聞き取り調査

対象者：不動産経営者の男性・C氏

場所：C氏事務所

調査日時：2006年11月28日（火）天気：晴れ 11:00～12:30

並木町への聞き取り調査

対象者：元教員、元町会長の男性・D氏

場所：D氏宅

調査日時：2006年11月29日（水）天気：雨 10:00～11:00

なお、本研究においては、理論仮説の設定に重点を置いたため、地域リーダーの方々へは構造化された質問項目による聞き取り調査が行われている。また、調査対象者へのアプローチは、金沢市役所の市民参画課の方の紹介を受け、電話でアポイントメントを取る形で行った。

3. 研究成果と考察

旧町名復活するための条件についての仮説の検証

	主計町	木倉町	柿木島	並木町
旧町名への愛着があったから、旧町名が復活した	○	◎	○	◎
旧区画ごとの人々のつながりがあったから、旧町名が復活した	○	○	○	×

強力なリーダーの存在があったから、旧町名が復活した	×	いづらか関係している	○	いづらか関係している
復活推進運動への積極的な参加があったから、旧町名が復活した	○	年齢によってまちまち	○	○
地域の活性化を希望したから、旧町名が復活した	×	×	○	×
経済効果を期待したから、旧町名が復活した	×	×	×	×
古い町並みやシンボルの保護を期待したから、旧町名が復活した	一応成立	対象外	○	×
他町の旧町名復活の流れに影響して、旧町名が復活した		○	○	○
マスコミによる刺激があったか	×	町の外では○ 町内では特に変化みられず	○?	○

旧町名復活した後の変化についての仮説の検証

	主計町	木倉町	柿木畠	並木町
旧町名が復活したから、経済効果があった	○	○	○	マンション街である
旧町名が復活したから、町の整備が行われた	×	×	○	×

旧町名が復活したから、治安がよくなった	×	○	○	×
旧町名が復活したから、若い人にも関心がうまれた	主計町には若い人が少ない	木倉町には若い人が少ない	×	○
旧町名が復活したから、コミュニティ意識が高まった	○	今後の課題	○	◎
旧町名が復活したから、町の知名度があがった	○	○	○	○
観光客の増加、またそれによる経済効果はあった	○	あまり関係ない	○	少しはそういえる
旧町名が復活したから、町のシンボルができた	×	×	○	×
旧町名が復活したから、波及効果があった	×	×	○	×

◎：よく当てはまる

○：当てはまる

×：当てはまらない

【考察】

まず旧町名が復活した各町に対する聞き取り調査で明らかになった点は、どの町も旧町名への愛着があり、復活にいたったという点である。このことだけを見ると始めからコミュニティ意識が高かったのではないかと推測される。しかし、すべての町で始めから結束が固かったわけではない。主計町、木倉町、柿木畠の3つの町はもともと町内のコミュニティ意識は高かったが、マンション住民が大半を占める並木町では、旧並木町民とマンション住民は疎遠であった。この並木町が復活に至ったのは、旧町名に愛着のある旧並木町民の積極的な活動によるものである。このことから、旧町名復活で一番重要なことは、旧町名を知る住民の旧町名に対する愛着であった。しかし、並木町では旧町名復活によって、

互いの挨拶が増えるなど従来にないほど人間関係がよくなってきている。また町内の行事への参加度もよくなり、旧町名復活によるコミュニティ意識の高まりが見られる。

では、その他の町のコミュニティ意識はどう変化したのだろうか。私たちは、すべての町において旧町名復活によりコミュニティ意識が高まったのではないかという仮説をたてた。しかし、どうやらすべての町において当てはまるわけではない、ということがわかった。主計町、柿木畠、並木町では聞き取り調査によりコミュニティ意識の高まりが見て取れる。しかし木倉町においてははまだ一步で住民とテナント営業者の連携が今後の課題であるとわかった。

4, 結論

- ・ 旧町名が復活し、町内のコミュニティ意識が高まった町もあった。
- ・ 旧町名の復活はコミュニティ意識に関してだけでなく、その他のことにもいい影響を及ぼしている。それは、知名度が上がったり、治安がよくなったり、経済効果があったりというようなことを感じている町があることから言える。

5, 今後の課題

- ・ 旧町名復活後の手続きの煩雑さをどのように解決していくか。
- ・ 旧町名を知っている人が少なくなりつつあり、年月とともに復活が困難になることへの対応。
- ・ 町会の枠を超えた横のつながりの構築。
- ・ 世代を超えたつながりの構築。